

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300641
法人名	有限会社 広優
事業所名	グループホーム 織月の郷
訪問調査日	平成 20 年 9 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670300641		
法人名	有限会社 広優		
事業所名	グループホーム 織月の郷		
所在地 (電話番号)	鹿児島県鹿屋市川西町2483番地 (電話) 0994 - 42 - 6667		
評価機関名	特定非営利法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7合		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】20年8月1日)事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成15年2月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 5 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 18 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 64 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小倉記念病院・おはま病院・渡辺内科・上村歯科
---------	------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市内の静かな住宅地の中に平屋建ての「織月の郷」が周囲に溶け込むように建っている。広い敷地には、畑があり芝生にはかまどがあって慰問にきてくれる保育園児や高校生などと一緒にかまどを囲みながら食事をするなどの交流を楽しんでいる。代表者と職員は、1日1笑をモットーに職員が指示を出すのではなく、常に問いかけを忘れず利用者の自己決定を待つケアを心がけている。人と人との繋がりを大切にしているので職員の人数も十分に配慮しており、利用者はゆったりと穏やかな生活を送っていることが窺える。また、子供の日には利用者と一緒に作ったお菓子を近所に配ったりと、地域との交流も積極的に進めていこうという姿勢が見られる。楽しい食事の材料についても地産地消で安全・安心を届けており、利用者が居心地良く生活していることが窺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価結果については職員に伝えミーティング時に改善点を話し合っており、すぐに改善された点もあるが、まだ、継続中の項目もある。地域密着型としての理念については、職員と話し合った結果、変更せず今までと同じ文言としている。食事を楽しむことの支援では利用者に献立を聞いて反映させている。職員を育てる取り組み、災害対策については継続中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については白紙の評価表に職員が記入し、職員と管理者で話し合いまとめあげている。評価を通してケアの振り返る良い機会としている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年6月より2ヶ月に1回、民生委員、町内会長、家族代表、利用者代表、事業所代表者、市役所職員、管理者が出席し行われている。事業所の活動状況などを報告し、地域住民の方からは地域の行事予定などの情報を得ている。また、地域の消防団と一緒に夜間訓練を行ってみたらどうかと、夏祭りについての助言をもらったり、活発に意見交換をして運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年3回ある事業所の行事に家族にも参加してもらい家族会を開いて、苦情や意見、要望などを出していただけるように配慮している。出された意見や要望については、管理者や職員と話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入して定期的に作成している事業所新聞を回覧板で回覧してもらっている。5月の子供の日には利用者と一緒に作った団子を近所に配ったり、近所の方からは手作り菓子や野菜をもらうなど交流している。消防訓練にも参加してもらい連携を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての運営方針はある。理念については職員と話合った結果、「その人らしくある為の自主性の尊重と尊厳の保持」という思いには「たおやかに凜として」という文言の理念が良いということに落ち着き、その補足として「地域に根ざしたグループホームを目指して」という文章で理由づけを行っている。		理念については職員と何度も話し合っ、「たおやかに凜として」という文言になったが運営方針とは別に捉えて、職員が地域の中でその人らしく生活することを支えるケアとはどのようなことを具体的にイメージして理念を作り上げていくことを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については職員の見える所に掲げ、利用者に対しておしつける介護ではなく、待つ介護になっているか問いかけながら理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所が定期的に行っている新聞を回覧板で回覧してもらっている。幼稚園の運動会に参加したり、中学校の職場体験を受け入れたりしている。子供の日には、利用者と一緒に作った団子を近所に配っており、近所の方からも野菜や手作り菓子をもらったりと交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果については、職員に伝え改善シートを使ってミーティング時に話し合っている。また、取り組み中の項目もある。今回の自己評価については、白紙の評価表を職員に渡し記入後に管理者と話し合い纏め上げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年6月より2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、家族代表、利用者代表、市職員、包括職員などが参加して行われている。地域代表から、町内の行事や利用者の外出先の情報を得たり、地域消防団との夜間訓練をしてはどうかなど、活発な意見交換がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員に相談に行ったり、事業所に来て頂いたりしながら連絡しあいサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回は必ず来所してもらうようにしており、その時に金銭出納帳にサインしてもらい領収書を渡している。年数回発行している新聞も郵送している。緊急時には家族に電話を入れ、報告した内容を記録し、家族からの連絡も記録に残し職員は共有している		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の行事の時に家族に集まっていただき家族会を開いている。特に苦情があがることはほとんどなく、面会時等に意見を言える様な雰囲気作りを心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人との繋がりを大切にしているので、職員の人数に余裕があり職員もゆとりを持って介護にあたっている。A棟、B棟での異動については何度か行き来して馴染んでから行き、新人が入った時には、1ヶ月間は担当者が付いて指導し、夜勤もその後に行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職員が平均して参加できるように配慮しており、研修の報告についても報告書を提出しミーティング時に勉強会を行い、回覧して参加できなかった職員の見取り印も取っている。		職員の資格取得に向けての取り組みについては事業所も協力しているが、事業所内部で職員とよく話し合い研修の年間計画を立てるなど、職員のスキルアップに繋がるような取り組みを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームが主催して行う勉強会には管理者、職員も参加しており、勉強会のネットワーク作りは行われている。職員が他のグループホームに研修に行ったりしてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人と家族に見学に来てもらい雰囲気に馴染んでもらうようにしている。入所後は自然に馴染むように、束縛せず自分のしたいようにさせて、何をしたいのかを把握するように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のできる事、洗濯物を畳んだり、料理を手伝ってもらうなどの場を提供したり、趣味のかご作りや書道、カラオケ、野菜作りを共に行うなかで信頼関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者自身から生活する上での希望を直接聞いたり、困難な場合には家族から聞いて、把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活の様子から気づいたことを職員は申し送りノートに記載し、ケアカンファレンスを行い職員の意見や家族の意見、本人の思いを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>体調が変化した場合には、かかりつけ医に電話で確認し主治医の意見書を参考にケアプランを変更している。特に変化のない場合でも1ヶ月に1回のモニタリングを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望があれば病院受診に付き添っている。また、医師、看護師と連携し医療処置をうけながら生活できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医が継続されている。家族の要望を受けて職員が受診した場合には、受診結果など電話で報告し共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、事業所においてできる事、できない事を入所時に伝えており、パンフレットにも歩行ができることが条件としているが、終末期になった場合は主治医、看護師、家族と話し合いを行って対応していく用意はできている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については契約時に交わし、記録物においても管理が徹底されている。職員も入職時に秘密保持に関する誓約書を交わしている。プライバシーを損ねるような声かけについては、命令語や指示語にならないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には朝寝坊してゆっくり朝食を摂ったり、夜に晩酌したり、趣味の籠作りや書道をしたり、外出したいという時には一緒に出かけて行き、物が無くなったと言われる時には職員が付きっきりで気が済むまで対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に何が食べたいか聞くと「何でんよか」と言われるので、一緒に畑に行った時や野菜を見せながら食べる意欲を引き出すように心がけている。野菜を切ったり、下ごしらえを手伝ったり、配膳、下膳と力量に応じて手伝っている。同じテーブルで職員と会話しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。拒む人には声かけのタイミングを工夫して入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除の後に軽く体操したり、畑の世話をしたり、洗濯物を畳んだりと出来ることをしてもらい、時には演奏会を聞きに行ったり、幼稚園児が慰問に来て一緒に食事したり、カラオケをしたりと楽しみ、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回ぐらいドライブを兼ねた買い物に行ったり、広い敷地に畑があるので畑にいたり、芝生の庭でお茶を楽しんだり、散歩などで季節を感じれるように戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が出て行こうとすると職員も一緒についていくようにしており、日中は鍵をかけずに利用者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に夜間想定避難訓練を年2回実施している。訓練には近所の方の協力も得られている。消防設備の点検は年1回行われている。		消火・避難訓練は行われているが、地震想定訓練は行ったことがないのでどんな時でも職員が自信を持って行えるように事業所での自主訓練と、非常食の備蓄を検討されることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立のバランスを年2回ほど見てもらいアドバイスを受けている。毎月、体重測定を行い変化を記録しており、食事の摂取量についても記録している。利用者の状態に合わせやわらかくしたり、一口大に切ったりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになっているリビングには畳みの場所に掘り炬燵があり、ソファもあって開放的でくつろげる空間となっている。台所からリビングの様子も見渡すことができる。リビングの壁には利用者と一緒に作った季節の壁飾りや利用者が書いた書道が飾られている。それぞれ思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは備え付けになっているが布団や、タンス、椅子、机などが持ち込まれ、家族と一緒に写した写真や家族からの手紙を壁に飾りその人らしい部屋となっている。		